

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケア理念の中に、家庭的な雰囲気の中で、ひとりひとりのペースにあった、その人らしい生活が安心して出来るように支えあい、認めながら過ごすことを理念としている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員に浸透するよう、月1回実施しているケア会議(運営者・当社役員・事務部門・経営管理部門職員も参加)を開催し、職員自らも日々の生活の中で、介護の実践として取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域の人々への理解を得ていこうとする、良い機会となっている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や、外出の際には、近隣の方々に挨拶はもとより、顔と名前を覚えて頂けるような取組をし、覚えて頂いた方もできた。また、当事業所の行事の際には、近隣の方々に招待状を配布、参加されている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治体の行事、地元の団体等が主催する行事等に、積極的に参加している。		今後も積極的に参加したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在行なっていない。		今後は、当事業所に併設の居宅介護支援事業所、訪問介護事業所と連携し、行ってまいりたい。また、地域の自治会から介護教室や講話等を開催してはどうかとの打診もあるので、どのようなことが出来るのかというところから、検討してまいりたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			今後、これらの評価を活かして、主体・期日・目標を設け、行いたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の年間開催予定を決め、行われている。その際に表明された意見、審議された内容を、サービス向上を期すために活かされている。		今後も、様々な意見表明が率直に行われるのはもとより、より実のある議論が行われるような取り組みをしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸法令、基準の解釈や、事例検討、運営推進会議開催における事務局機能の向上、入居を検討される方の事前協議等に取り組んでいる。		今後も、利用者・介護保険を担う市民の代表としての市町村について、より一層の連携が出来るような取り組みをしたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見、民法上の意思能力・行為能力については、経営管理部門において弁えている。		今後は、職員においても、これらのことはもとより、まずは制度の概要と実際から入り、最終的には必要な人に支援できるような状態にまでしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	形式の確立した学びの機会を得てはいないが、趣旨を理解して、管理者や職員は常に言動に注意している。		今後は、課題を決めて勉強会を行い、外部の実施主体が開催する研修や勉強会に参加したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居・退去の際、十分に説明を行い、同意を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や職員は利用者から意見、不満、苦情を表明し易いような言葉掛けを行い、引き出せるよう常に配慮している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、定時に、1カ月の様子を家族等へ紙面にて報告している。あわせて、日常においては、電話連絡、面会に訪れた際に報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、不満、苦情については、常に表明できるような環境をつくっている。</p>	<p>ご意見箱の設置を行う予定。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回、運営者も参加し職員会議を開催、意見交換を行い、必要に応じて運営に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じ、勤務の調整を柔軟に行っている。</p>	<p>ゆとりのある勤務とは何か、ライフ・ワーク・バランス(仕事と私生活の共存)とは何か、役職員間で協議を重ね、事業性との両立を図った多様な働き方を模索し、より柔軟かつケアの向上に寄与する取り組みを、担当者を決めて行いたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者の心理的・精神的な影響を最小限にとどめるよう、心掛けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修に関しては、段階的に考慮し、実施している。入職の際は、既存職員と同一の勤務に就き、トレーニングを行っている。		県社会福祉協機会、グループホーム連絡会等主催の研修会に積極的に参加していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護業務を中心とした勤務状況にあり、人員配置の都合上、行えていない。		ゆとりのある勤務とは何か、ライフ・ワーク・バランス(仕事と私生活の共存)とは何か、役職員間で協議を重ね、事業性との両立を図った多様な働き方を模索し、これらの事業者との交流や意見交換、情報交換が行える勤務体制を整備する取り組みを行いたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入職者、退職者の歓送迎会を随時、職員親睦会を毎月1回、役職員懇親会、懇談会を随時行い、役職員同士の交流や、リフレッシュを図っている。また、職員からの相談や悩み事等は、運営者、管理者が中心となって応じている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の勤務状況を把握したうえで、経験や努力を理解したなかで、向上心が持てるように、個々に具体的な必達目標を持たせ、勤務させている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時から、利用者の言葉に傾聴し、不安や心配事を取り除くために、各専門職間とのコミュニケーションが取れるよう配慮している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の状況も把握したうえで、必要に応じ利用者宅等を訪問し、電話や信書等によりコミュニケーションを取れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所が対応できる場合は、説明を重ねて、理解と同意、確認を行っている。相談内容に応じた支援に努める。対応できない場合は、他のサービス利用のための情報提供やアドバイス、関係機関への紹介等を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	全て納得したうえで入居というのは、難しい場合が多いのが現実だが、事前に施設見学をもらい、生活の様子をみてもらうように努めている。体験入居も採用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯、調理等、役割を持ち、日課のように取り組んでいる。日常、利用者と職員が互いに支えあい、学びあう場面がみられる。		本人の得意な分野を発見し、自信を持って生き生きと過ごせるように支援していく。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	担当制を採用し、信頼関係を築けるように努めている。また、電話や信書等で情報を伝達し、面会時はコミュニケーションを取るように努めている。家族が参加できる行事も行っている。		運営推進会議の日程や、議題、議事の内容を検討し、家族の積極的な参加を促進する。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	気軽に面会に訪れるような環境作りに努めている。一緒に食事を取ることや、いつでも外出、外泊ができるようにしている。また、遠方の方にとっては、宿泊する方もある。		今後も、個々の利用者、家族毎の支援方法を工夫する。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別な場合を除き、自由な面会ができる。贈り物が届いたり電話や信書の交換等、関係は継続されている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	コミュニケーションが困難な方にとっては、孤立しがちであるが、職員が間に入り、関係を構築できるように努めている。支えあい、一緒に楽しんでいる場面も見られる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了後、継続的な関わりを必要とする利用者や家族がない。		今後、そのような利用者家族がある場合に、どのような関わり方ができるか、事例検討をしたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の部屋にて一対一で、本人の希望を聞き希望がかなう様に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメント実施時に、本人趣味・嗜好を考慮し生活に生かしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日のリズムを理解し、日常生活動作低下予防・手段的日常生活動作の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者・担当職員(入居者担当制を実施)・家族等・利用者等、必要な関係者と相談し、計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回実施しているケア会議の際や、担当職員からの申し送りの際に立案し、1週間程度様子を見てから、計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録へ記載し、ケア会議時に活かす。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等の意見を受け止め、出来る限り柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で建議し、協力を得るための調整を行い、実施している。		警察との協働が行なわれておらず、消防との協働が必ずしも十分とは言えないので、今後、運営推進会議への招請を行うなどして、協力関係を構築したい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当事業所に併設の居宅支援事業所に所属するケアマネジャーと情報交換しているが、他事業所のケアマネジャーやサービス事業者とは接点がない。		他事業所のケアマネジャーやサービス事業者と、情報交換をしていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在行なっていない。		今後地域包括支援センターと密に連絡し、協働していく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族等と相談し、家族の意見を最終的に尊重している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院が地域での認知症専門病院であり、介護に関しての助言を得ている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在行なっていない。		親交のある看護師等に、今後、随時招請し、相談の機会を創出したい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	担当医師と相談し、医療的な処置がなくなり次第受け入れできるように努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症以外の内科的な疾病等、入所前からよく把握し、家族等、担当医師らと相談し、全員で方針を考えることとしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期にあっては、人員配置を手厚くし、ケアに取り組むこととしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	日常生活の記録やサマリーを作成し、家族の了解を得て情報を開示している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が、統一した言葉かけや対応を行うようにし、互いに注意を促している。記録等は所定の場所で保管している。	引き続き、個人情報の取り扱いについては、これを厳重に行っていききたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人のニーズに合わせたコミュニケーションを図るように心掛けている。また、幾つかの選択肢を用いて、自己決定を促している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自の生活スタイルを把握したうえで、生活のメリハリがつくよう努めている。職員側のペースになってしまうこともある。	本人の希望になるべく沿えるよう、個々のケアの充実を図りたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に、地域の理美容室に通っている。衣類は、フリーマーケットや複合商業施設(SC)等にて自ら選び、購入している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗、湯呑、箸等は各自、使い慣れたものを使用している。メニューを一緒に考えたり、野菜切り、味付け、味見等を職員とともにし、ともに食事をとっている。片付けは利用者が行い、職員は見守る。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒に関しては、現在、行っていない。たばこを嗜む方もいるので、これを支援している。飲み物は何種類か用意し、好みのものを選択できる。おやつは、買い物に出掛け、各自が選んで購入している。	飲酒の機会について、家族等、担当医師らとも相談し、検討していききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている(自立の方以外)。夜間に限って、ポータブルトイレを使用し。リハビリパンツを使用しなくなった方もある。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中の人員配置が手厚い時間帯(10時から17時30分)に、好きな時に入浴できる。入浴の拒否がみられる方は、時機を見て声をかけ、好みの入浴剤を使用したりするなど、工夫をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、活動的に過ごすことを心掛け、夜間の安眠に努めている。利用者各位、良く眠りにつかれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の得意な分野を把握し、日々の生活に取り入れ、それを役割として、職員が支援している。気分転換を兼ね、レクリエーションや外出を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、当事業所に併設の介護事業を所管する、やはり当事業所内に置かれている事務部門において管理しているが、小額程度の金銭を所持している方もいる。買い物に出掛けた際に、金銭を利用者に渡し、購入をする方もある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良好な日など、利用者の希望により、外出している。買い物、ドライブ、外食、散歩、公園、映画館等に出掛けている。		外出できなかった方のフォローアップに気配りをしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に帰宅したり、近隣や隣接する市町村の図書館へ行かれる方もある。また、墓参等は家族が利用者と一緒にしている方もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話をかけ、家族が利用者に定期的に電話をかけるように協力を要請または依頼している。信書をしたため、差し出す方もある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	事前に連絡を受け、いつでも面会、外出、外泊できるような支援をしている。一緒に食事を取る方もある。		面会に訪れることが困難な家族もあり、面会に訪れるように働きかけをしていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者の訓令や口頭での指示はもとより、諸法令の規定を周知し、実施している。ベッド柵は、手すりとして必要な方もあるので、使用している方もある。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関については解錠している。居室については、外部への開口部の開閉時にセンサーが感知し、音と光の明滅により職員に通報できる装置を備え付けている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士、声を掛け合いながら、入居者の行動を把握している。夜間は、全居室が視界に収まる位置にて待機し、見守り、巡回等を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、刃物類、薬品類等、厳重な注意のもとに管理の必須な物品に関しては、保管場所を徹底している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や急変時、事故防止マニュアルを整備し、それを基に対応している。火災予防及び火災発生時の対応に関しては所轄消防署と連携し、その立ち入り調査、検査と、指導のもとに取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを整備し、対応しているが、現実の訓練は行っていない。		所轄消防署が行う応急手当(救急蘇生法等を含む)の講習等を受講し、初期対応等の訓練を行いたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難方法を習得していない。災害時等、地域、近隣住民の協力が得られるよう、運営推進会議等で働きかけている。		避難訓練を行うことにつき、マニュアルを作成し、定期的の実施したい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こり得るリスクを家族に説明し、理解を得たうえで入居している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員全員が情報の把握ができるよう、記録整備、調整を徹底し、早期発見に努めている。		体調変化が著しい場合は、早急に医療機関に受診し、家族に連絡し、連携していく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の効用、副作用を一覧表にまとめ、確認しながら行っている。必ず、手渡して行い、服薬の確認を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取、メニューに食物繊維を含有する食材を用いるものを取り入れる等、工夫している。また、日中の運動にも取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、個別の口腔ケアを行っている。義歯を使用している方にとっては、就寝前に、洗浄を行っている。		定期的に、歯科の受診を実施したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分摂取量を記録している。週に1回、体重測定を行い、現状を維持できるように、食事の摂取量に配慮している。生活習慣病がある方、慢性疾患のある方にとっては、摂取量や塩分について配慮している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は、入居者、職員ともに全員が受けている。感染症予防として、うがい、手洗い、居室の換気、清掃を徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを整備し、対応している。まな板、布きん、包丁等は塩素系洗剤等で漂白、除菌をしている。食材は賞味期限、消費期限内はもとより、新鮮なものを、新鮮なうちに消費できるように、調達の際にメニューの幅を広く保てるように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープ、手すりが設置しており、使用しない際には壁に収納できる腰掛け様の椅子を整備している。リビングから外部への開口部(掃き出し)には、延長してウッドデッキを設け、洗濯物等を干せるようにしている。建物周辺には、花木を植栽している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあったものを利用者とともに制作し、居室、廊下、壁などに装飾している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、リビングにはソファや、リビングに隣接する畳スペース、廊下にもソファを置き、思い思いの場所で過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持参し、居心地よく過ごせるようにしている。また、利用者、家族と相談しながら、環境作りをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の換気口、掃除の際に空気の入換え、トイレの換気扇(静穏型、常時稼働)、消臭剤の設置をしている。室温調整は、利用者の体調等に応じて柔軟に行っている。また、空気清浄機を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる個所に、手すりを設置しており、バリアフリーになっている。		利用者の状態の変化により、随時検討していく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できることを見つけ、自信をもってもらえるような支援をしている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植え、畑を耕作し、成長や収穫を楽しみ、積極的に散水や、除草等を行っている。		庭にベンチを設置したい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)